

# 議題2 資料4 白井市地域公共交通網形成計画の進捗状況等について

## ・地域公共交通網形成計画目標までの進捗

### 1 ネットワークの拠点となる交通結節点の整備

指標：交通結節点の整備数



- 令和3年8月の新ルート、ダイヤ改正では、白井駅、西白井駅の両方に発着するルート設定を行い、結節点として市内移動のアクセスの向上をはかりました。
- 3カ所目の工業団地につきましては、工業団地へのコミュニティバスの利用者は増加しているものの、交通結節点の整備までは行えませんでした。
- 令和4年度末（最新のメッシュデータ）の市内人口により、メッシュ確認をおこなったところ95.5%のカバー率でした。

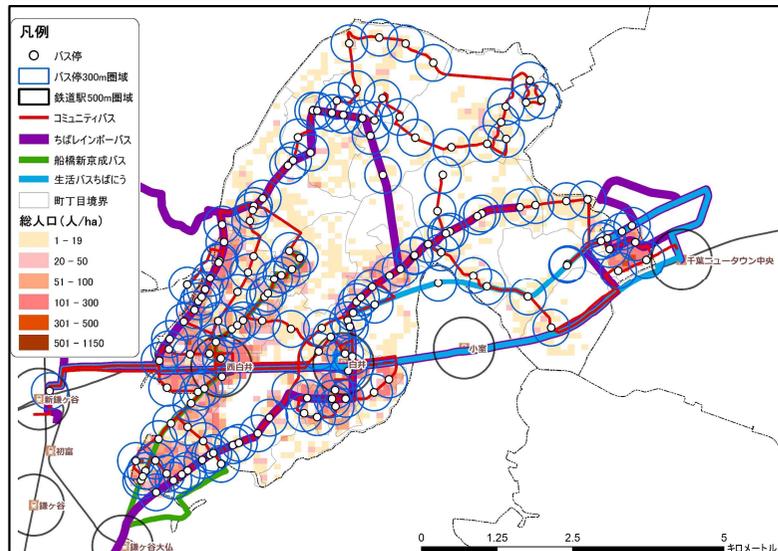
### 2 公共交通の人口カバー率の確保

指標：公共交通（鉄道・バス）による人口カバー率



	人口総数	カバー人口	人口カバー率
H30計画策定時	62,900	55,972	89.0%
R03実績値	62,703	59,896	95.5%
R04実績値	62,646	59,870	95.5%

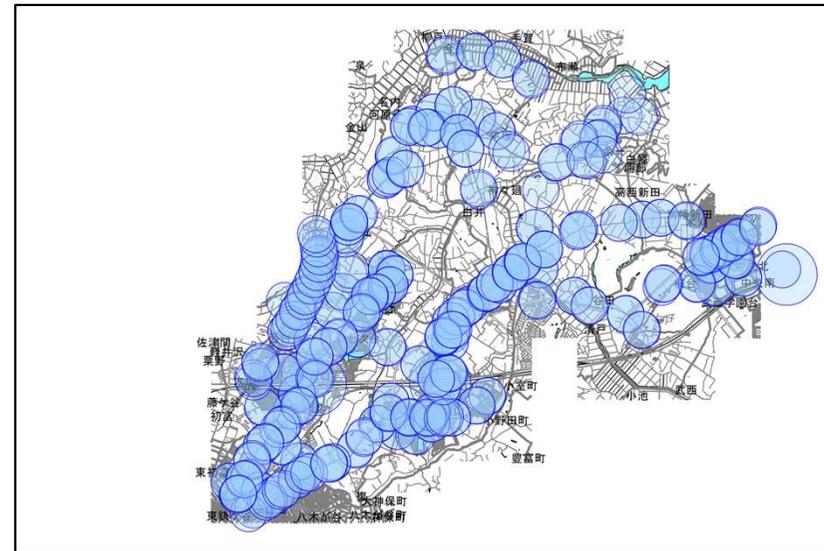
【計画策定時】



#### ※人口カバー率算出方法

- 公共交通によるカバーエリアを駅半径500m圏域、バス停半径300m圏域内として仮定
- 上図100mメッシュデータ（H27.3末時点）に基づきカバーエリア内の人口を算出
- 人口の総数はH27年推計値を用いる  
⇒ (b) / (c) をカバー率とする

【令和4年度末】



#### ※人口カバー率算出方法

- 公共交通によるカバーエリアを駅半径500m、バス停半径300m圏域内と仮定
- 上図100mメッシュデータ（R5.3末時点）に基づきカバーエリア内の人口を算出
- 人口の総数はメッシュ総人口の62,646人を用いる。  
⇒(b)÷(c)をカバー率とする

### 3 公共交通の利用者の確保

指標：公共交通の年間利用者数

【バス：市内運行系統の利用者数】

H30：127万人/年

目標：100万人/年

R4年度末：75万人/年

【鉄道：市内駅利用者数】

H30：408万人/年

目標：350万人/年

R4年度末：374万人/年

### 4 公共交通利用促進活動の実施及び強化

指標：公共交通利用促進事業の取組項目数

H30：5項目

目標：8項目以上

R5年度末：10項目

#### 取り組み項目の内容

実施事業	事業の内容	進捗	実施の状況	今後の方針	実施主体	実施事業	事業の内容	進捗	実施の状況	今後の方針	実施主体
事業3 コミュニティバスの運行サービスの見直し	①【優先】コミュニティバスへのバスロケーションシステム導入の検討	概ね順調	R6.2本格運用開始	システムの定着と利用者増に向けた取り組みの検討	白井市 路線バス事業者 タクシー事業者	事業6 利便性の高い地域公共交通の環境整備	②市内駅におけるアクセス特急の停車、特急増便の要望	概ね順調	鉄道事業者への要望活動を随時実施	引き続き要望活動を実施	白井市 鉄道事業者 路線バス事業者 タクシー事業者
	②役割に応じた運行ルートの見直し	概ね順調	R3.8が作・ルート改正実施	利用者等、実情に応じた見直し			③高齢者や障がい者に対する接客サービスの向上	概ね順調	地域ケア推進会議等への参加により福祉部局との連携	引き続き調査研究	
	③交通結節点における鉄道、路線バスとの乗り継ぎが作の調整	概ね順調	R3.8が作・ルート改正時に配慮	引き続き調査研究		事業7 公共交通の利用啓発	③（強化）分かりやすい市内公共交通マップなどの充実	概ね順調	GTFSデータを活用しGoogleマップ等へバス停、乗換案内の表示 地域公共交通ブックの作成	引き続きデータの活用とブックの配布	白井市 市民 鉄道事業者 路線バス事業者 タクシー事業者
事業5 地区に応じた適切な交通手段の継続的な調査・検討	①【優先】適切な時期を捉えた市民ニーズの把握	概ね順調	調査方法、対象者の検討	次期計画策定に向けたアンケート調査実施	白井市 路線バス事業者 タクシー事業者	④（強化）沿線自治体等連携した鉄道の利用促進活動の推進		概ね順調	北総線沿線地域活性化協議会の事業として沿線地域活性化トレインを運行	活動を継続	
	②乗合タクシーやデマンド型交通など、継続的な先進事例の調査・研究	概ね順調	県内・近隣市のデマンド交通等の状況確認や先進事例の情報収集	引き続き調査研究			⑤タクシー利用案内の実施	概ね順調	地域公共交通ブックによる利用案内	引き続きブックの配布	

※GTFS（General Transit Feed Specification）とは、経路検索サービスや地図サービスへの情報提供を目的としてアメリカで策定された世界標準の公共交通データフォーマットです。

- 路線バスの利用者数は、令和3年度末からさらに減少が続いており、令和5年5月に新型コロナウイルス感染症の位置づけが5類に変更され、社会の情勢はコロナ禍前に徐々に戻りつつありますが、リモートワークなどの新しい生活様式の導入や少子高齢化等の影響により、数値目標の達成には厳しい状況があると考えています。
- 鉄道の市内駅利用者数は、令和3年度末より増加しており、目標値についても達成をしています。
- 持続可能な公共交通を目指し、関係者との役割分担と連携による公共交通ネットワークを形成していきます。
- 市内の持続可能な公共交通ネットワークを構築するため、令和3年8月にルート及びダイヤを見直しました。
- 運行サービスの向上を図るため、バスロケーションシステムの導入、グーグルマップ等へバス停の表示や乗り換え検索を可能としました。
- 公共交通を分かりやすく案内する地域公共交通ブックを作成しました。
- 高齢者・障がい者の移動支援ニーズに対応するため、地域ケア推進会議等へ参加し、福祉部局との連携を図りました。
- 沿線自治体等と連携を図り鉄道利用促進のための活動として、地域の魅力を発信する沿線活性化トレインを運行しました。
- 次期計画策定に向けたアンケート調査準備、乗合タクシーやデマンド交通等の先進事例の調査研究、その他要望活動に取り組みました。